

Oxylog3000 について

山口史子

●はじめに

従来の救急・搬送用人工呼吸器は、換気設定もアラームもモニタリング機能も非常に少なく、シンプルにフローを流すものでした。今日の救急・搬送用人工呼吸器ではフローと圧の計測が可能になり、PEEPや吸気時間の設定なども可能になったため、救急時のみならず重症患者様の搬送時にも使用が可能になっています。救急・搬送用人工呼吸器として2003年に発売された本製品は、従来のドレーゲル・メディカル社の搬送用人工呼吸器のシリーズの中でも最高スペックのもので、従来は重症患者様の搬送時には、集中治療用人工呼吸器を、重さ・サイズ・使用環境などに苦勞しながら使用することが必要でしたが、オキシログ3000では換気性能と搬送性のベストマッチにより高度な換気の継続と搬送性の両立を可能にしています。多種の人工呼吸パターンを可能にしつつ高度気圧補正機能・波形表示機能などを搭載し、場所や状況を問わずに人工呼吸を開始することができる、多様化する救急医療分野に対応した人工呼吸器です。

●特徴

人工呼吸器としての機能は、従量式・従圧式換気モード、並びに酸素濃度調整を含め、細かい設定をも可能にするパラメータを各種搭載しており、また、挿管・マスク換気どちらにも対応しています。操作性は極めてシンプルであり、電源立ち上げ時の換気設定などをプリセットすることで緊急時への対応時間の短縮化にも注力しています。強い光があたっても反射しづらい画面は多角度からの視認性にも優れています。この画面上に患者様情報を数値と波形とで表示をすることで、患者様状態の把握も一目瞭然であり、またバッテリー残量・使用酸素量が常に表示されているため、搬送使用中の操作も安心して行うことができます。

●使用例

移動が伴う場であれば全てが適用ケースです。海外ではヘリサービス・救急車でも多く使われており、日本でもドクターヘリにおける搭載例が増えつつあります。また、救急初療室用人工呼吸器とすることで、マスク換気適用による挿管の回避や、カテ室処置の往復から手術室・ICU等へ落ち着くまで一台で対応することができます。ICUからのCT搬送などにも多く使用されています。オキシログ3000はベッドレールにかけたりベッド上の空きスペースに置くことができるため、カテ時・CT撮影時などでも呼吸器の取り回しを気にせずに処置を行うことができ、また離れたところからでも画面で患者様状態の把握がしやすいため、医療スタッフが呼吸器に煩わされることが少ないという評判も頂いています。

●結語

この度オキシログ3000をご紹介させて頂いたことで、一人でも多くの患者様の治療にお役に立てて頂けるよう、一選択肢としてご興味を持って頂けると幸いです。



DRF (ドイツヘリサービス) 機内写真

Two in One

The new Evita XL - the combination of excellence

New エビタXLが、スムーズで快適な換気を挿管からマスク換気まで、あらゆる患者様に提供します。スムーズで快適 - 大人、子供、そして新生児にも人工呼吸ができます。

詳細は www.draeger.jp

Dräger. Technology for Life®